

[004] 嚶鳴 : 九州大学全学教育広報誌

<https://doi.org/10.15017/25187>

出版情報 : 嚶鳴. 4, pp.1-22, 2012-10-01. 九州大学基幹教育院
バージョン :
権利関係 :

Kyushu University
Faculty of Arts and Science
"General Education" Magazine, "OHMEI"

嚶 鳴

お ろ め い

第 4 号
2012年10月

九大100年まつり



嚶鳴

Kyushu University
Faculty of Arts and Science
"General Education" Magazine, "OHMEI"

嚶鳴 第4号
2012/10 発行

全学教育広報誌「嚶鳴」の創刊について

- 創刊** 平成23年（2011年）4月
対象 全学教育科目を履修する学生
目的
 - 学生のスームズな科目履修の援助
 - 全学教育を履修する学生と教職員の意見交流の場
 - 全学教育および伊都キャンパスに関する様々な情報の発信**内容** 全学教育科目及び学問・研究に関わる情報の掲載
発行 全学教育支援組織としての基幹教育院が発行責任を持つものとし、年に2回（4月号・10月号）発行。



表紙の写真

5月13日、伊都キャンパスで「九大100年まつり」が開催されました。

このイベントは、九州大学の創立百周年を祝い、本学の取組や研究活動などを地域の方々に広く知っていただくために催されたものです。各学部等による研究公開やステージ企画、露店、親子スポーツフェスタなど、さまざまな催しが行われました。

地域の方々や親子連れなど約1万9000人が会場を訪れ、場内は活気にあふれていました。

九州大学は100年の節目を迎えましたが、これからも、伊都の自然や地域の方々に見守られながら、大きく発展していくことでしよう。

目次	
information	3
「嚶鳴」の由来	
第65回九大祭	4
～九大祭の中心で、何を叫ぶ?～	
九州大学学生後援会文化祭2012	5
教員による授業紹介	6
～学生へのメッセージ	
学生の授業体験談	10
～先輩から後輩へのメッセージ	
交換留学体験談	12
～海外へ羽ばたこう!	
短期語学研修	13
外国語学習の次の一歩	14
～言語文化研究院からのお知らせ～	
新入学生・学習サポート室より	15
サークル紹介	16
～カフェ運営サークル茶処	
お知らせ	
情報相談室からのお知らせ	17
ぜひ気軽に「学生生活・修学相談室」へ	18
健康科学センター健康相談室より	19
Discover Ito! ～伊都キャンパスおすすめスポット紹介～	20
～センターゾーン入り口「アートワーク 築山」	
あとがき	21

information

募集 **センターゾーンのシンボルマーク**
 皆さんが学んでいるセンターゾーンのシンボルマークを募集します。学舎のイメージでも、全学教育を学ぶ学生さんのイメージでも、何でも構いません。奮って応募ください。応募方法は以下のとおりです。
募集規格: 大きさは特に求めません。
表現方法: 画材は自由、カラー仕上げとします。但し、色数は5色程度まで。デジタル画像も可とします。
応募: 一人3点まで、未発表のものに限ります。作品は、全学教育課全学教育総務係(センター1号館2階)に持参又はデジタルデータとしてメール添付で送付(ohmei@artsci.kyushu-u.ac.jp)してください。応募にあたっては、所属学部・学科・学生番号・氏名と返信用メールアドレスを付けてください。提出された作品等は返却しません。採用作品の著作権は、九州大学に帰属し、九州大学で広く使用することに同意の上、ご応募ください。優秀作品には表彰状と記念品を贈呈します。締め切りは、11月30日(金)正午までです。個人情報を選考結果の通知のみに使用します。

募集 **表紙・裏表紙 写真、イラスト**
 全学教育広報誌「嚶鳴」では、表紙・裏表紙に掲載する写真、イラスト等を募集しています。作品は、全学教育課全学教育総務係(センター1号館2階)に持参、又はデジタルデータとしてメール添付で送付(ohmei@artsci.kyushu-u.ac.jp)してください。応募にあたっては、所属学部・学科・学生番号・氏名と返信用メールアドレスを付けてください。提出された作品等は返却しません。採用等詳細については、メールでお知らせします。

プレゼント **「おうめい君」を探せ**
 「おうめい君」(右参照)が第4号の中にいくつか数えてみてください。正解者の中から抽選で20名に賞品を差し上げます。応募は、ohmei@artsci.kyushu-u.ac.jpまで、①おうめい君の数(このページは除く)、②所属学部・学科・学生番号・氏名、③返信用メールアドレスを付けて応募ください。締め切りは11月16日(金)正午までです。当選者には11月末までに返信用メールアドレス宛にお知らせします。個人情報は、当選の通知のみに使用します。



「嚶鳴」の由来

平成21年4月の全学教育の伊都キャンパス開講に伴い、センターゾーンのセンター2号館4階に、全学教育における学生の学習等の場として、「嚶鳴天空広場“Q-Commons”」(以下「嚶鳴天空広場」という。)が開設されました。

嚶鳴天空広場は、多くの学生たちに愛され、勉学はもとより学生の集いと憩いの場として、親しまれています。この広場は、全学教育関連の参考図書を開架し図書館機能を持たせるとともに、学生が気軽に集い語り合える学びの場の機能を兼ね備えており、これまでの大学にはない新しいスペースとして誕生しました。

本誌全学教育広報誌の名称も、全学教育の伊都キャンパス開講とともに、しんぎ(新奇・心機)に、「嚶鳴(おうめい)」に変更することになりました。

「嚶鳴」とは詩集「詩経」に出てくる言葉で、自然豊かな伊都キャンパスで多くの学生が仲間を求めて切磋琢磨しながらともに成長してほしいという願いがこめられています。

中国最古の詩集である「詩経」の小雅「伐木」にある

伐木丁丁 [木を伐ること丁丁たり]
 鳥鳴嚶嚶 [鳥鳴くこと嚶嚶たり]
 出自幽谷 [幽谷より出でて]
 遷于喬木 [喬木に遷る]
 嚶其鳴矣 [嚶として其鳴く]
 求其友聲 [其の友を求むる聲あり]
 相彼鳥矣 [彼の鳥を相るに]
 猶求友聲 [猶友を求むる聲あり]

威勢良く木を切ると 響きあう鳥たちの声 深い谷間から高い木へと舞う その鳴き声は友を呼ぶ声だ あの鳥でさえ友を呼ぶ まして人ならば友を呼ばないことがあるか……
 に由来。

【嚶鳴(おうめい)】
 ①鳥が仲よく鳴き交わしたり、友人を求めて鳴いたりすること。また、その声。(大辞林)
 ②友人同士が仲よく語り合うこと。
 ①鳥がむつまじく鳴きかわすこと。また、鳥が友を求めて鳴く声。
 ②友人がむつまじく唱和すること。(広辞苑)



センター2号館4階
嚶鳴天空広場 Q-Commons

第65回 九大祭

～九大祭の中心で、何を叫ぶ?～

日時:2012年11月24日(土)・25日(日)
9:00～19:00

場所:九州大学伊都キャンパスセンターゾーン



■主なイベント

○ミス九大コンテスト

九州大学で最も美しい女性を決めるコンテストです。毎年、才色兼備の美女達が九大祭を盛り上げます。

○九秀團侍(ミスターコン)

容姿・知性・将来性を兼ね備えた九大生らしい者、九大生としての誇りと高き志を持つ者、ユーモアあふれる者から九大一の男性を決めるコンテストです。

○仮装コンテスト

男装、女装、コスプレ…様々な仮装でパフォーマンスをしてもらうコンテストです。今年が初の試み!

○スタンプラリー

キャンパス中に置かれたスタンプを探して、スタンプラリーを完成させましょう。スタンプを揃えた方には景品が!

○ゲスト招聘

今年も豪華ゲストを招聘します。決定次第広報いたしますのでお見逃しなく!

○フィナーレ

25日の夜に行われるフィナーレ。空も暗くなっていく中、九大祭を締めくくる有終の美を是非ともご覧ください!

※この他にも、九大生で構成される企画団体が、テント、教室、ステージにて出店・催し物を行います。
※企画内容は現在調整中であり、今後変更される可能性があります。



■今年度のテーマ

九大祭のテーマは、毎年実行委員で話し合いをもって決定しています。今年も話し合いにてテーマを考案していたのですが、2時間考えても中々良いアイデアがまとまりませんでした。でもそんな時、委員の誰かが、ふと、このテーマを思いついたのです。このテーマを聞いた瞬間、私はピンと来るものを感じました。九大生の持つ、パワー。昨年度の九大祭でも、内に秘めたパワーを存分に発揮している九大生の姿を見せ付けられました。今回、このテーマに盛り込まれている“叫び”というワードは、そんなパワーのイメージにぴったりだと感じたのです。「九大祭の中心で、何を叫ぶ?」というテーマには、この九大祭という機会に、九大生だけでなく来場者の方々にも、自らの活力を“叫び”として発現してほしい、という願いを込めています。そして、その“叫び”のエネルギーは、伊都に、福岡に、日本に、世界に、轟くことでしょう。

■歴史ある、しかし、新しい九大祭

九大祭は、今年でなんと第65回を迎えます。しかし、伊都キャンパスでの九大祭の開催は今年でまだ4回目。九大祭は、伊都キャンパスにその地を変え、テント配置、教室配置、立地、天候—様々な環境が新しくなり、60回を超える開催にも関わらず未だ発展途上の学祭となっています。発展途上と言うとなんだか聞こえが悪いですが、言い換えると、まだまだ新たな成長を遂げることができる、ということ。長い年月の中では、伊都キャンパスでの九大祭はほんの3年間しか経験がありません。私達は、その流れを汲みつつも、自分たちの「やりたいこと」を存分に組み込んだ、そんな新鮮な九大祭を作り上げようと思っています。

九大祭へのご来場を、実行委員一同、心よりお待ちしております。あなたは、九大祭の中心で、何を叫びますか?

■第65回九大祭実行委員会問い合わせ先
総合お問い合わせ先: info65@kyudaisai.jp
Twitter: @kyudaisai2012
WEBページ: www.kyudaisai.jp

九州大学学生後援会文化祭2012

日時:2012年11月3日(土)
15:30～18:00

場所:西部地域交流センター さいとぴあ

■出演サークル紹介

○ピアノの会

2007年に出来たばかりの新しいサークルです。先輩、後輩の分け隔てなく、楽しくピアノを弾いています。夏と冬にコンサートを開催していますので、ぜひ、お越しください。

○フィルハーモニーオーケストラ

九州大学と福岡市近郊の大学の学生で構成されています。年に2回の定期演奏会に加え、地域の方々からの依頼で演奏を行っています。2009年、これらの活動が評価され、福岡市より「福岡市民文化活動功労賞」を受賞。また同年、九州大学に先駆けて創立百周年を迎えました。

○タップダンスサークルThat's Entertainment!

九州大学の学生を中心に活動しており、学内のイベントや地域の夏祭りなど、呼びがあれば板を持って駆けつけます! 12月22日(土)にふくふくホールでTAP LIVEを行います。私たちの1年間の集大成をお見せしますので、ぜひ、お越しください!

○能楽部

私達は観世流シテ方楽師・森本哲郎先生のご指導の下、4年次に能を舞うことを最終的な目標として、稽古に励んでいます。また、能楽公演のお手伝いや観能をする事もあります。年に2回程公演していますので、ぜひ、お越しください。

○落語研究会

年に4回の寄席と、公民館や老人ホームなどでの出前落語を中心に活動しています。お客さんに楽しんでいただくために日々練習に励んでおります。たくさん笑ってください。よろしくおねがいします。

○放送研究会

アナウンスや朗読に加えてラジオ番組やラジオドラマを制作しております。週3回の部会の中では、放送経験者・未経験者・先輩・後輩の壁を越えて和気あいあいとした雰囲気の中で「伝える」ということを追求しています。

九州大学学生後援会では、文化系サークルの日頃の成果や活動内容の発表の場として、西区との共催で「西部地域交流センター さいとぴあ」(JR筑肥線 九大学研都市駅前)にて文化祭を開催しています。

今回、文化祭へ出演を予定しているサークルは「落語研究会」、「ピアノの会」、「タップダンスサークル」、「能楽部」、「フィルハーモニーオーケストラ」、司会進行役として「放送研究会」の6サークルです。

各サークル20分程度の出演時間ではありますが、その成果をぜひ、沢山の方々に見ていただき、九州大学で活動を行っているサークルを少しでも知っていただく機会になれば幸いです。

入場料は無料となっています。お知り合いの方等誘い合わせのうえ、お気軽に足をお運びください。



■問い合わせ先
九州大学学生後援会事務局
Tel:092-802-5968
http://gkouen.jimu.kyushu-u.ac.jp



初修外国語のすゝめ



言語文化研究院
教授

福元 圭太
(ふくもと けいた)

FUKUMOTO Keita

uten Tag! 全学教育ドイツ語担当の福元です。

—どうしてドイツ語の先生に?

—私は中学生の頃から、モーツァルトやバッハを聴きながらヘッセやトーマス・マンの翻訳本を読んでいた、とっても暗い少年でした。その頃から将来はドイツ語に関係する職業に就きたいと漠然と考えていました。本当は指揮者になりたかったのですが、それはあきらめてドイツ文学研究の道へ進みました。

—中学生の頃からですか。ずいぶん年季が入っていますね。

留学経験は?

—大学院修士課程のとき、当時の「東ドイツ」の首都、東ベルリンへ。「ベルリンの壁」の向こう、社会主義国で10ヶ月暮らしました。2回目は新婚時代に10ヶ月、かつて「西ドイツ」の首都であったボンに滞在。3回目は子連れでミュンヘンに10ヶ月。東ベルリンの話は涙なしには語れません(教室限定)。

—「東ドイツ」はもう地図にない国ですね。ドイツ語を教えるのは楽しいですか。

—ほとんど(唯一の?) 生きがいです。ドイツ語教育の一貫として学習独和辞典の編纂に加わってもう20年以上になります。言葉ひとつひとつにこだわる地味な作業で、三浦しおんさんの『舟を編む』の世界そのものです。

—英語が重要なのはわかるのですが、初修外国語を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか。

—最大の意義は、その学習が日本語と英語だけでは知れない広大な世界への扉を開く鍵だということです。私たちは言語を通してしか世界を把握できません。これは一般に「サビア-ウォーフ仮説」(サビアもウォーフもアメリカの言語学者)と呼ばれている「言語相対仮説」という考え方です。ドイツでも同時期に「新フンボルト学派」のヴァ

イスゲルバーという人が同じようなことを主張しています。ほんの一例ですが数や色の概念、あるいは親族の区分が言語によって異なると、世界把握も異なってしまいますよね。たとえば「浅葱色」や「利休鼠」といった日本の伝統色はドイツ人にもアメリカ人にも「見えない」でしょうし、Bruder (=brother) といわれても、私たちには兄なのか弟なのかかわからない。

—なるほど。それでは文学作品も基本的には翻訳不能だと?

—真の詩人の作品は翻訳不能だとデイドロは言っています。ロックなどは、ある言語の中の概念はひとつとして他の言語に翻訳不能だとまで。ベンヤミンはそれほど悲観的ではなく、翻訳を通して普遍的理念としての「一なる言語」が志向されると言うのですが。

—なんだか難しくなってきました。英語学習にも初修外国語は役に立ちますか。

—それはもう。英語がいかに簡略化への道を辿った言葉かということがよくわかるようになります。ドイツ語やフランス語、スペイン語やロシア語を習って初めに驚くのは、名詞の性かもしれませんね。ドイツ語で太陽は女性、月は男性。フランス語ではこれが逆になります。これも世界把握の違いですね。英語もいわゆる古英語期には名詞は男性・女性・中性の区別があったのですよ。動詞の人称変化も「ドイツ語並み」に複雑でした。そのほかにも初修外国語を学んで初めて英語の姿が見えてくるのがたくさんあります。

—最後に学生へのメッセージをお願いします。

—皆さんは1号館の横にある山川健次郎初代総長の胸像をご覧になったことがあるでしょう。その台座には「修養が広くなければ完全な士と云う可からず」と刻まれています。教育に市場原理が持ち込まれてすでに久しいですが、その誤りに気付き始めた人も徐々に増えてきました。文系・理系に関わらず、即効性、有用性の奴隷になることなく「広い修養」を身につけてください。特に理系の学生さんには、これまでにノーベル賞をとったドイツ人80名のうち、なんと68名が自然科学か医学の分野での受賞だという事実を知ってほしいです。レントゲンもコッホもアインシュタインもハイゼンベルクも、皆ドイツ語でものを考え、話し、書いていたのです。九大生なら「英語プラス1」が「標準スペック」だという誇りをもって、初修外国語に取り組んでください。

ヒト一人は60兆個の細胞でできている? ちょっと計算してみよう



理学研究院
教授

小早川 義尚
(こばやかわ よしたか)

KOBAYAKAWA Yoshitaka

「ヒト一人は、60兆(60×10¹²)個ぐらいの細胞でできていると言われている」と細胞生物学の講義で紹介する。受講者の何人かは聞き知っているようだ。ところで、細胞の大きさは大体10μm(マイクロメートル)立方ぐらいのものだとするのは、それほど外れてはいない。じっさい、自然科学総合実験で動物組織の顕微鏡観察をするときに接眼マイクロメータで確かめてみれば納得できると思う。もっとも、実験で観察するのはカエルの組織だけど細胞の大きさはヒトもカエルも同じようなものだ。で、「計算してみると納得いくよ。」と講義で言っておく。実際自分で計算してみた受講生が何人いるかは知らない。

さて、ちょっと計算してみる。細胞の大きさは、10μm立方。10μm×1000=1cmだから、1cm立方の中には、1000³=10⁹個入ることになる。ヒトの比重も、まあ、ほぼ水と同じぐらい(本当は少し重いだらう)と大雑把に見積もると、ヒト1cm³の重さは1g。それが10⁹個の細胞でできていることになる。細胞1個あたり10⁻⁹g。それが60兆(60×10¹²)個だと、60×10¹²×10⁻⁹g=60×10³g、つまり60kg。まあ、ヒト一人の体重として妥当なところでしょう。「ヒト一人の細胞数は60兆」というのにも納得できる。

ついでに遺伝子・DNAがらみの計算を少し。ヒトゲノムは約30億塩基対の大きさ。DNAの構造で塩基対間の間隔は0.34nm(ナノメートル)、これはかなり確かな値。また、計算してみる。0.34nm×30×10⁸=1.02×10⁹nm、つまり約1m。ところで、細胞1個には父親からもらった1セットのゲノムと母親からもらった1セットのゲノム、併せて2セットのゲノムが収まっている。だから、1細胞あたり2mのDNAだ。それがよく小さな細胞の核の中に旨く収まっているものだ。本当か? DNAの2重らせんの太さは約2nm。これを250,000倍して0.5mmの太さ

のひも(携帯ストラップのひもがこれくらい)とするとその長さは2m×2.5×10⁵=500kmになる。細胞の核の大きさを5μm立方とするとそれも250,000倍して1.25m立方。この中に太さ0.5mmとは言え500kmのひもが上手に収まるのか? 大体、入るのか? 0.5mm直径のひも500kmの体積は、3.14×0.00025²×500000=0.098125m³。ちゃんとする。とは言え、纏れさせずに整然と入れるのは大変そうだ。ついでに、ヒト一人のDNAの総延長を計算してみる。ヒト一人の細胞数は60兆だったから、2m×60兆=120兆m。どれくらい長いんだ? 120兆mは光の速さ(3×10⁸(m/s))で何日かかるかを計算すると、120×10¹²÷(3×10⁸)=4×10⁵(s)となる。1日は24(h/d)×60(m/h)×60(s/m)=8.64×10⁴(s/d)だから、4×10⁵÷(8.64×10⁴)=4.63(d)となり、4日半かかる距離だ。地球と太陽の距離が、150億m(1天文単位)だから、その800倍! DNAを毛糸玉みたいに丸めて、えいと太陽めがけて投げて跳ね返ってきたのを受け止める。これを1日1回毎日やっても1年365日では伸びきらない。

さて、DNAは遺伝情報の担い手。30億塩基対のDNAの保持する情報はどれくらいか? 4種類の塩基のATGC30億の順列だから4^{30億}だけの場合の数だと考えてみる。これもすごく大きな値だ。でも、私たちヒトの大脳皮質には140億の神経細胞があると言われている。ものすごく単純化して考えて、各神経細胞は興奮しているかないかの2つの状態を取り得るとすると、大脳皮質の取り得る場合の数は2^{140億}=4^{70億}。私たちの遺伝子の保持できる情報量に比べて私たちの脳の保持できる情報量の方が桁違いに大きい。カール・セーガンの「エデンの恐竜」によると、(脊椎動物において)神経系の保持できる情報量が遺伝子の保持できる情報量を超えたのは恐竜(は虫類)以降であるらしい。ヒトの遺伝情報も結構なものだけど1細胞である受精卵がそれを使ってさらに桁違いに大きな情報を処理できる中枢神経系を作り出す仕組みは何ともすごいものだ。その基礎となる細胞についての入門的講義が「細胞生物学」なのだが、その面白さを午後の講義で睡魔と戦う受講生をはっと目覚めさせるように旨く伝えるのは難しい。

1μm(マイクロメートル)=10⁻⁶m
1nm(ナノメートル)=10⁻⁹m





教員による授業紹介

～学生へのメッセージ 〰〰

情報のサイエンスを学ぶ



システム情報科学研究院
准教授

正代 隆義
(しょうだい たかよし)

SHOUDAI Takayoshi

情報と聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか。ワープロでしょうか、表計算ソフトでの統計処理でしょうか。それともプレゼンテーションソフトを使った研究発表でしょうか。そういった「情報収集・処理・発信」をするための基本的なソフトとその使い方を思い出す方は多いと思います。また、ホームページなどを使った情報発信を思い浮かべる方もいるでしょう。ツイッターやフェイスブックを高校で学んだ経験を持っている方は稀だと思われていますが、実際に使っている方、もしくはこれから是非使ってみようと思われている方は多いと思います。このような情報発信を行う上で、必要不可欠なのが「情報倫理と情報セキュリティ」の理解です。情報と聞いて、このことを思い浮かべる方は、既に十分、情報倫理と情報セキュリティに気を使っている方だと思いますので、心配していませんが、そうでない方はぜひご注意を。

さて、情報は数学や物理学と同じ「サイエンス」の側面を持ちます。計算とは何か、皆さんは考えてみたことがありますか。皆さんは小学生以前から膨大な計算を行って来たはずですが。自然数の加減乗除の練習、しばらくして分数を習い、中学生になれば、変数を持つ数式を計算するようになります。高校生になれば、計算は単なる道具であって本質的なものではなく、問題の解法を考えるのが主となるでしょう。実際、大学入試の数学で難解な文章題が解けたときに、「計算できた」と叫ぶ方は少ないと思います。計算機は多くの仕事が出来ます。しかし、万能ではありません。計算機に可能な計算は、加減乗除、数の比較、メモリーの読み書き、それに加えてこれら3つの基本演算を組み合わせ得られるものだけです。これ以上でもこれ以下でもありません。計算機自体はその組み合わせを忠実に実行するだけで、計算に必要な基本演

算の組み合わせ方（これがアルゴリズムです）を考えてはくれません。それを考えるのは皆さん自身です。皆さんがよく使っているワープロや表計算ソフト、ツイッターやフェイスブックでさえ、基本演算の膨大な組み合わせで動いています。これらがうまく動いている（動いているように見える）のは先人の努力の積み重ねです。アルゴリズムを考えるということは、問題の解決方法を基本演算の組み合わせだけで表現するという高度に緻密な論理的思考を行うということなのです。

計算機には計算できない問題があります。実は「計算できない」という意味には二種類あります。一つ目は、原理的に基本演算の組み合わせでは計算できないということです。皆さんは、自分が作ったプログラムがちゃんと停止して答えを出してくれるかどうか（つまり無限ループに陥ることなく停止するか）を判定するソフトがあれば欲しいと思いませんか。残念ながらこのようなソフトは原理的に存在しません。作ろうと努力しても無駄です。二つ目は、計算はできるけれど時間がかかる、つまり、どのように巧妙に基本演算を組み合わせても現実的な時間では終了しない（地球が太陽に飲み込まれるのは50億年後だそうです）、それまで待つても計算が終了しない」という意味です。囲碁や将棋には、任意の局面での勝敗を決定するアルゴリズムはありますが、現実的な時間では停止しません。現実的な時間で停止するアルゴリズムは作れません。フリーセルやさがめがめが解を持つかどうかを判定する問題では少しだけ希望が持てます。でも現在までに現実的な時間で停止するアルゴリズムは見つかっていません。しかし悲観する必要はありません。こうした多少悲観的に思える問題も、それを逆手にとって強い暗号技術などに応用してしまうのが、情報のサイエンスです。

「情報処理演習」のプログラミング課題で与えられる問題は現実的にも（もちろん原理的にも）計算が終了するアルゴリズムが存在する問題です。「情報処理演習」で学ぶ情報のサイエンスは、皆さんに緻密な論理的思考のトレーニングを積んでもらうことと、そして良いアルゴリズムとは何かを学んでもらうことが目的です。情報処理は、大学での研究を行う上で、分野を問わず様々な場面で必要になります。そして情報はサイエンスです。これからの学生生活、あらゆる情報を大いに活用してください。

「グローバル」な教育を目指す



比較社会文化研究院
講師

Matthew AUGUSTINE
(マシュー オーガスティン)

九州大学大学院・比較社会文化研究院の歴史学専任講師として着任してから、早くも二年経ちました。当初は大学院の担当授業以外に全学教育にどう貢献できるか、また受講生に何を学んでほしいか等について熟考を重ねたことが未だ記憶に新しいところです。色々と考えた結果、やはり私は日本で生まれ育ち総計22年過ごしてきたアメリカ人であり、日米両国の教育制度で学んだ知識や経験を何とか生かそうと決めました。付け加えて言うならば、高校時代にベルギーで通った国際学校のカリキュラム、大学時代に中国や韓国で体験した語学留学の教育方法も含めて幅広く活用し、より国際的、あるいは「グローバル」な教育を目指したいと考えています。九大では文系基礎科目、文系コア科目、共通コア科目それぞれ三つの科目において、専門分野である歴史学の教授法を用いつつ、和書だけではなく英語圏の専攻研究を適宜紹介し、なおかつ独自の視点で講義することを試んでいます。ここでは全学教育で担当している「現代社会／現代史」、「歴史と社会」、「人間性」の授業をそれぞれ紹介します。

「現代社会／現代史」では現代日本の歴史について講義しています。現代日本の政治・社会・文化に対する理解を深める為には、第二次世界大戦の敗北を転換期として、戦後間もなく実施された一連の改革に基づく新体制の形成とそれに抵抗して生じた様々な紛争を共に検討する必要があります。とくに日米安保と55年体制という二つの対外・国内体制の成立と維持に焦点を当てることによって、現代日本が平和と民主主義に基づく経済大国に上りつめた過程が明らかになります。その歴史的過程のなかで現代日本には十分に議論すべき様々

な論点もあれば、それに伴う見解も多様であります。また、これらの諸論点は日本国内と海外では見解が異なる場合があります。この授業ではこうした現代史上の論点に関して意見を交わしながら、世界における日本という枠組みの中で、現代日本の社会について学生と共に考えようと試んでいます。

「歴史と社会」ではアジア太平洋地域におけるアメリカ合衆国の歴史について講義しています。私は米国史に対する理解を深めるためには、旧来の西洋中心主義の歴史観から離脱して、環太平洋的な視点からアジアとアメリカの関係を見直す必要があると信じています。19世紀半ば頃から進んだ合衆国の西方拡張がどこまで及んだのかという問題を追及していくことによって、アメリカが目指した世界大国の原形が見えてきます。また、アジア太平洋地域の一角である日本の近代史は、米国東インド艦隊の黒船来航以降、日米関係史と密接に繋がっています。けれども、日本とアメリカ合衆国の二国間関係の枠組みにとらわれていては両国の近代史、とりわけアジア太平洋の近現代史というものは見えてきません。そのため、この授業では米国とアジア諸国の外交史に留まらず、トランスナショナルな視点から人や物の流れ、思想や文化の交流について考えるように努めています。

「人間性」ではグローバリゼーションの歴史について講義しています。グローバル化と呼ばれる現象において、15世紀半ば以降の大航海時代から著しく進んだ人、物、情報等の移動により世界各地が徐々に繋がりはじめました。そして、近代、現代へと進む過程において経済的、政治的、また文化的にも地球の一体化がどんどん進行していきました。こうした人や物の流れがどうやって世界の一体化をもたらしたのかという問題を解明する為には、とりわけ科学技術の発達とその技術をうまく利用することができた共同体の特質にせまる必要があります。また、グローバリゼーションの発展が現代社会にどのような影響をもたらしているのかについて検討しなければなりません。そのため、この授業では新たな学問領域であるグローバル・ヒストリーの観点から人間性について考えています。



学生の授業体験談

～先輩から後輩へのメッセージ

全学教育の 学習の楽しさ

文学部 2年
韓 相一 (ハン サンイル)



皆

さんは全学教育という課程についていかなる考えを持っていますか？多くの学生は伊都の全学教育の授業について否定的な考えを持っていると思いますが、むしろさまざまなテーマの面白い授業を受ける機会に恵まれることはいいことではないかと思えます。たとえば、文系学生も理系コア科目を受けなければならないし、逆に理系の学生も文系コア科目を受けねばなりません。理系の科目にあまり自信のない文系の学生や、文系の科目にあまり自信のない理系の学生は受験が終わって大学に入学し始めて単位の取得方法について説明を聞いたとき、戸惑った学生もたぶん少なくないでしょう。

しかし、このような自分の専門とまったく関係のない授業を気楽に受けることができるのも全学教育が私たちに与えた一つの祝福かも知れません。全学教育の授業はほとんどが高度の専門性を要求しません。つまり、だれでも受けて理解できる授業が多いということです。私の場合は理系に弱いです、全学の理系コアを受けて理系科目の面白さをわかるようになりました。そして、高校時代にも触れ難いテーマの授業、たとえば精神医学の講義も受けることができよかったです。

また、伊都での学びは単純に頭を使う授業ばかりではありません。一例として、私が受けたことのある或る歴史の授業は教室授業も充実に行われましたが、それよりもさらに大きな比重を占めていたのが歩き回りながら歴史を感じるための「フィールドワーク」でありました。この授業の主な目的は伊都キャンパスの周辺に見学しに行くなど、歩きまわりながら歴史を感じることができました。この授業を通じて、身を以て歴史を感じることは、必ずしも名勝や有名な史跡に行くだけではないことに気付きました。

私の全学教育にての印象的な体験は主にこの二つです。みなさんもこのような体験を試してみたくありませんか？きっと私も楽しい授業を見つけ、いい体験ができると思います。

全学教育期間中 の大学生活

農学部 2年
酒井 絵莉子 (さかい えりこ)



一

年後期、ついに全学教育を終え、専攻の学習へと移りました。これまでの1年半、伊都キャンパスにおいて全学教育を受けてきましたが、正直初めはそう気の進むものではありませんでした。特に文系科目に苦手意識のある私にとって、履修選択は大きな問題でした。「こんなことしに大学に来たんじゃない！」「専門的なことはいつさせてもらえるの？」そう思っている1年生も多いのではないのでしょうか。私もそうだったので。

しかし、1年半が過ぎ、いざ全学教育が終わってしまうと、どこか物足りないような気もするものです。他学

部との交流や自分の全く知らなかった分野についての学習が、こっそりと自分の大学生活を豊かにしてくれていたのだなと気づかされます。高校みたいだと思っていた全学教育の制度も、今考えれば、むしろ「自ら選択し、学び、広げる」大学らしいものだったのではないかと思います。はっきりと何かに繋がることを学ぶことも大切ですが、いつどこで役に立つかわからない、ちょっと自分では手に届かないことを学ぶことで、視野が広がり物事を多方面から見つめる力が付くのだと思います。

伊都キャンパスでの生活の間、私はサークル活動に励みました。他学部の仲間たちと授業の空き時間や放課後に集まって活動することは、新しい環境の中でホームを作っていくような感覚がありました。キャンパスが離れ、自分の専攻教育が始まってしまえば、こういったサークルにさける時間や集まる機会も限られてくると思います。なので、1年生の皆さんにとっては後約1年間、勉強と両立してサークルや課外活動も楽しんでほしいと思います。そこでしか得られないものや、大学生ならではの経験が得られるはずですよ。

九州大学に入って半年。みなさんいかがお過ごしでしょうか。これから4年間、あるいはもっと先までを見越して、未来への投資となる大学生活をお互い楽しんでいきたいですね。

全学教育の 大切さ

工学府機械工学専攻修士 2年
大野 佳子 (おおの よしこ)



皆

さんは、全学教育についてどのように感じているでしょうか？これから、九州大学に入学して6年目になった今、私が感じていることを書きたいと思います。

大学に入学し初めて全学教育を受けたとき、私は、なぜ専攻に関係のない授業をこんなに受けないといけないのかな、と思っていました。もちろん、理系基礎科目などは、今後、専攻科目の授業を理解するために大切なので、しっかり勉強しないとイケません。しかし、共通コアや総合科目などは、いつ役に立つのか分からないため、無駄な授業に感じられました。

しかし、授業が進むにつれて興味が持てなかった授業でも、教授がどのような問題意識や目的を持ってそ

の学問に取り組んでいるのか、また、社会の中でどのような意味があるのか、おぼろげに分かってきました。そうすると、初めの退屈さは消え、理論やそれを裏付ける様々な情報を知ることが楽しくなってきました。また、授業課題のレポートや発表を通して、自分の意見を人に伝えることの難しさや面白さを知ることができました。

学部4年になり、研究室に配属された私は、騒音低減に関する研究を始めました。研究を進めていくときに、全学教育で学んだ知識が大切であったと気付きました。なぜなら、この研究テーマは、技術的に面白いものであるだけでなく、社会の様々な要求や問題を背景にしています。研究テーマは教授から与えられたものですが、この研究の社会的な役割や意義を考え、問題意識を持つためには、工学の知識だけではなく、全学教育で学んだ知識が重要となってくるからです。例えば、共通コアや文系コア科目の授業を受け、社会と健康の関わりや、様々な文化や価値観の形成について考えたことが、研究の意味を考える手助けになったと思います。

全学教育で学んだ知識は、直接役に立つことばかりではないかもしれませんが、しかし、何か問題を考え、それを判断するときに、全学教育で学んだことが助けになると思います。後輩の皆さんには、ぜひ様々なことに興味を持って、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

知識を得るための 知識

工学府航空宇宙工学専攻修士 2年
藤城 努 (ふじしろ つとむ)



本

当に役に立つ知識は何でしょうか？専門の知識でしょうか、それとも法律の知識でしょうか、あるいは雑学でしょうか？どれも大事だと思いますが、私が考える最も有用な知識は、「何を調べれば解決するか」の知識です。

具体的には、英単語の意味を知るためには英和辞典を引けばよいと「知っている」、ことが大事です。当たり前と思うかもしれませんが、もっと難しい課題ならどうなるか、たとえば最近ヒッグス粒子で話題の「宇宙の起源」なら如何ですか？何を調べたらよいと思いますか？おそらく英単語と違って何十年もかかる問題ですが、少

なくとも物理学を修める必要があるでしょう。そして一口に物理と言っても多岐にわたりますから、どの分野を「調べればよい」か、調べるだけでも一苦労です。

このような知識を一体どこで身につけられるか？それは授業に出ることです。思うに全学教育というのは、専門の学術的知識を得るのが目的ではなく、自分で当該分野を勉強するときに、どのような分野のどのような教科書や論文を読めば疑問が解決するかを「知る」ためにあるのではないのでしょうか。もっと極端に言えば、授業では参考文献とその内容さえノートしておけばよいのです。専門の知識は後で図書館に行ったり、友達に教えてもらったりして、身につければよいのです。

私も一応就職活動をして思っているのですが、やはり社会が求めているのは物知り博士ではなくて、探偵さんのような人です。すなわち、答えは知らないけれど、解決策やその手がかりは知っていて自分で答えを導くことができる人です。

また、学部生の皆さんにはGPAを恐れるあまり、興味はあるけど難しそうな授業を避けている人がいるかもしれません。なるほど額面上のGPAは優秀でも、実質GPAとでも言うべきか人生のGPAを下げていませんか？何も知らなくてもよいのです、なぜなら調べればよいのですから!!

交換留学体験談

海外へ羽ばたこう!

21世紀プログラム4年
中村 麻莉 (なかむら まり)

留学先：香港中文大学（香港）
期間：2011年8月～2012年4月



私は2011年の8月から約8ヶ月間香港中文大学へいきました。私が留学を目指す一番大きなきっかけとなった出来事は、2年生の夏にケンブリッジ英語学術研修に参加したことです。この研修では、非常に意識の高い仲間に恵まれ、今まで経験したことのない密度の濃い時間を送ったことで、長期留学への思いがより一層強くなりました。また多くの友人が留学を志していたので、周囲から触発され交換留学への挑戦を決意しました。英語だけではなく中国語も学びたいという希望と専攻分野である工学系も成果を挙げている大学を選び、香港中文大学への留学を志願しました。

留学先の香港は日本から非常に近く、観光でも人気のある都市です。また中国の影響を受けながらも、香港だけのアイデンティティが根付き、アジアの貿易拠点の一つであり、非常に活気づいた都市です。香港中文大学は、香港大学と並び歴史と伝統があり、山の上にそびえ立つ広い自然豊かなキャンパスが特徴の学校です。年間500人以上の留学生が集まる大学で、広東語、北京語、英語が入り交じるインターナショナルな環境で毎日を送りました。私は主に工学部と中国語の授業を中心に履修しました。工学部の授業はレクチャー、実験、チュートリアルから構成されており、毎回課される課題に苦戦しました。レクチャーに関連する最新の研究の論文を読みディスカッションを行うなど、日本とは異なる形式でしたが、非常に充実した授業内容だったと思います。言語のクラスでは、会話やプレゼンテーションを中心に実践的な形式で授業が行われま

した。同じ寮の学生は勤勉で毎晩図書館へ一緒に行き、課題に取り組みました。

学習面以外では、課外活動にも積極的に取り組みました。水泳部の大学代表チームの一員となり、練習に参加し、試合にも何度か出場しました。香港全土の大学が集まる選手権でチーム一丸となり頑張った結果、総合優勝を果たしたことは一番良い思い出です。また、エイズで両親を失った子供達を支援するウガンダの団体である「Watoto」に携わるボランティア活動にも参加しました。両親が居なくても夢を持ち、頑張る子供達の姿には大きな感銘を受けました。もし留学する機会を得たら、学習面だけではなく課外活動にも積極的に取り組んでみてください。留学生だけでなく現地の学生との交流も深められると思います。

私は香港での留学生活を通じ、今まで日本での生活では得られなかった体験や経験を数多く積むことができました。この貴重な経験は、将来の目標達成につながるものであったと確信しています。留学をすることで、就職活動の時期を逃す等の心配があり、留学には興味があるけれども、一歩踏み出せない人も多いと思います。しかし、心配や困難を乗り越え、留学を経た結果、得られた収穫はかけがえのない宝物になることなのでしょう。幸いなことに、九州大学は留学制度が整っており、留学を支援する奨学金も充実しています。最近では、留学経験者が開催するイベントも数多く主催されていますので、まずはそのような場で相談してみてもいいかもしれません。みなさんもあと少しの一歩を踏み出し、世界へと羽ばたいてみませんか？



短期語学研修

CLP (The 21st Century Challenges in Living Abroad Program)

CLPとは、中国、韓国への交換留学を目指す九大学生を支援するプログラムです。中国と韓国には九大学生が交換留学できる大学がたくさんあります。大学間交流協定校だけでも中国は21校、韓国は19校です。最近ますます存在感を増してきた両国。交換留学を希望する九大学生も増えてきました。中国、韓国交換留学の足がかりとして、現地語学研修CLPを実施しています。両国に年間各10名を3週間派遣し、授業料と宿舍費を九大が負担。語学力を向上させ、現地体験をすることで、両国留学への心理的バリアを解消し、その後のより充実した中国、韓国への交換留学に繋げることができます。

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/short/short-term.htm>

タイ語・タイ文化集中講義／短期留学

タイのマヒドン大学との学生交流の一環として、相互に自国の言語・文化を紹介する集中講義や短期留学を実施しています。8月にタイ語やタイ文化に関する集中講義を受け、8～9月の2週間マヒドン大学で学びます。

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/mahidol/short.htm>



シリコンバレー英語研修プログラム(SVEP)

九州大学カリフォルニアオフィスが全面的にバックアップする夏季の英語研修です。開催場所はカリフォルニアオフィスにも近く、かつ本学の協定校でもあるサンノゼ州立大学のアメリカ英語研究所(SAL)で実施しています。シリコンバレーは起業家精神に溢れ世界の技術の最先端の地として広く知られた地域で、サンノゼ市は北米で国際ビジネスが盛んな10都市の一つとされ、比較的治安の良い大都市です。また、年間平均300日以上晴天に恵まれ、全米で住みやすい都市の上位に常にランクされます。このサンノゼでの4週間の語学研修とホームステイをとおしてどっぷりと英語の生活に浸ることで、英語への壁が取り除かれることでしょう。

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/california/program.html>

フィリピン短期留学ASEAN in Today's World (AsTW)

AsTWは九大学生と福岡女子大生及び海外の大学生が参加する、アジアを学ぶ短期留学プログラムで、春期休暇中にフィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学で開催します。アジア諸国の言語文化(入門)科目とアセアン・東アジア関連の専門科目が開講され、授業は全て英語で行われます。海外の学生と一緒に英語で議論するなど、英語力を試すよい機会となります。マニラ近郊の名所観光やフィリピン文化体験もあり、盛りだくさんのプログラムです。全学教育科目の単位取得が可能です。(応募資格等は、ホームページを参照ください。)

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/astw-j/index.htm>



ケンブリッジ大学英語・学術研修

言語文化研究院で実施している言語研修です。12月から翌年8月の事前研修を受けた後、8月中旬から出国して、ケンブリッジ大学で英語と専門学術科目を受講します。

<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/cambridge.html>

海外大学等のサマースクール

九大の協定校が実施するサマースクールには、参加費等が免除されるものもあります。参加には、学生係や留学生課へ書類提出するものと、所定の機関へ直接申し込むものがあります。

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/summer/summer.htm>



必須科目以外に外国語を学びたい学部生・大学院生の皆さんへ

後期「言語文化自由選択科目」では以下のような多彩な科目を開講しますので、外国語運用能力アップに役立ててください。

平成24年度 後期 言語文化自由選択科目 授業時間割

月	火	水	木	金
1 英語リスニングⅡ			入門中国語Ⅱ	英語リスニングⅠ 英語リーディングⅡ
2 英語会話Ⅰ 入門イタリア語Ⅱ		英語リーディングⅠ	中国語聞き取りⅡ	英語会話Ⅱ
3				
4 入門フランス語		入門ドイツ語	入門インドネシア語Ⅱ	
5 英語リーディングⅡ 英語ライティングⅡ	韓国の言語と文化 ドイツ語中級Ⅱ	英語会話Ⅱ ドイツ語読解演習Ⅱ 時事スペイン語	英語会話Ⅱ 表現スペイン語	英語プレゼンテーションⅡ ドイツ語リスニング演習Ⅰ フランス語作文コース フランス語実用会話 英語プレゼンテーションⅡ
6 英語テストテイキング		英語リーディングⅢ 英語会話Ⅰ 英語会話Ⅱ	英語ライティングⅡ	英語テストテイキング 英語テストテイキング

- 黄色は言語文化研究院箱崎分室(箱崎地区旧工学部3号館北棟3階)、青色は伊都地区センター1号館にて開講します。
- 受講受付期間:平成24年9月26日(水)~平成24年10月15日(月)
- 英語は、レベル判定によるクラス分けを行いますので、過去3年以内のTOEFL(九大英語標準化テスト可)またはTOEICのテストスコアを受付時に持参してください。なお、クラス分けおよび授業内容など詳細につきましては、言語文化研究院箱崎分室、伊都地区全学教育教務係及び各学部学生係にて9月中旬以降に受講案内書を配布致します。また言語文化研究院箱崎分室のHP(<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~flcbr/>)もご覧ください。



理学部3年 森口 夏季 (もりぐち なつき)

私は「ドイツ語オーラル演習Ⅰ」を受講しています。これはÖSD(オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験)の対策講座です。ÖSDはLesen(読解)、Hören(聴き取り)、Schreiben(独作文)、Sprechen(面接)の4つから構成されていて、この講義では、それぞれのパートを実践形式で練習しました。ÖSDはオーストリア政府が認定する、国際的に通用するドイツ語の能力検定です。私は来年の春にドイツに行くつもりなので、ドイツ語の力を向上させたいと思い、受験することにしました。

対策のクラスや試験を通して学んだのは、言語というのは道具だ、ということです。試験では自分の語彙にない表現もたくさん出てきます。そのとき、不完全でも自分なりにドイツ語をつかってみる、というのが大切だと感じました。特に面接では、相手に伝わるのが一番大切です。先生からは、「沈黙が一番だめです。文法や発音が不完全でも相手に伝わることもあります。」と教わり、その通りだと思いました。これまでは、文法などが「正しい」ドイツ語のための勉強が中心でした。これからは、「伝える」ドイツ語を勉強していこうと思います。

比較社会文化学府 修士2年 松田 朋子 (まつだ ともこ)



「プレゼンテーションⅠ」の受講後には英語でプレゼンができるようになります。かといって、厳しくて行きたくなくなる授業というわけではありません。楽しみながら上達します。

受講のきっかけはマレーシアでの日本文化紹介がまいちだったこと。初めての英語プレゼンは、棒読みで早口で、わねながら楽しくなかった。次回はもっと魅力的なプレゼンをしたいと思い受講しました。授業は、いきなり高いハードルを課せられることはありません。はじめは2人組で観客はひとりだけです。おいしいお店の紹介など身近な楽しい話題で練習します。徐々に3、4人の前で、最後にクラス全員の前で発表します。

受講し始めたときは、大勢の前でのあいさつもよくできませんでしたが。しかし終わってみると、視線やジェスチャー、声の効果的な使い方、文章の組み立て方、グラフや表の使い方、英語での文と文のつなぎ方、質問への答え方など総合的に身に付けることができました。何よりも英語でプレゼンができたということは、大きな自信につながります。おすすめの授業です。

今年度もやります!「第4回外国語プレゼンテーションコンテスト」

今年度は2013年1月12日午後開催します。1、2年生の積極的な外国語学習を奨励するための学生参加型の外国語教育イベントです。詳細は「英語ⅢA」の授業や掲示板及び言語文化研究院HPでお知らせします。これまでのコンテストの様子は、Web(<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~presentation/>)をチェックしてください。

日本語ディベート講座およびディベート大会を開催

日本語ディベート講座およびディベート大会が以下の日程で開催されます。詳細は井上奈良彦教授(inouen@flc.kyushu-u.ac.jp)まで問い合わせください。

- 10月13日(土) JDA九州日本語ディベート講座
- 12月8日(土) 日本語ディベート練習会
- 12月9日(日) JDA九州日本語ディベート大会

新入学生サポート制度

新入学生サポート制度は、学生のみさんが入学直後に直面する様々な不安を軽減し、大学生活への円滑な移行を早期に図るため、2年生の先輩がサポーターとして生活上及び修学上の相談に応え支援を行う制度です。

昨年は入学式から授業開始までの時期において、延べ1000人ほどの方が相談に訪れました。

毎年よくある相談内容としては、履修(時間割の組み方や履修登録の方法など)に関する相談、大学内の施設や窓口の場所、サークルやアルバイトに関する相談等が挙げられます。高校までとは違い全て自分で考え行動することが求められ、新入学生のみさんにとっては戸惑うことばかりだと思います。過去に同じような不安を抱え、それを乗り越えてきたサポーターからのアドバイスは、きっとみなさんを助けてくれます。

どんなことでも、サポーターが笑顔で丁寧に対応しますので、ぜひサポート室に足を運んでみてください。

次年度の新入学生サポーターを平成24年12月に募集しますので、ご応募をお待ちしています。



活動期間 4月~7月(前期授業最終日まで)
時間帯 4月:平日 10:30~17:00
5~7月:月・水・金曜日 15:00~17:00
場所 サポート室(センター2号館2102教室)

学習サポート制度

学習サポート制度は、全学教育を履修している学生のみさんに、全学教育の授業科目の学習支援、学習相談を行うと同時に大学生としての主体的な学習態度の涵養を図るため、大学院生の先輩がサポーターとしてアドバイスを行う制度です。

具体的な内容は、授業で理解が不十分だった箇所の解説やレポートの書き方などの他に、全学教育科目と専攻教育科目との繋がりや、進路に関する相談といったことも行っています。

他にも就職活動についての体験談などを聞くこともできます。学部低年次生(特に新入学生)のみさんから見ると、大学院生のサポーターは少し大人で緊張してしまうかもしれませんが、彼らはみな優しく丁寧に対応してくれます。学習面で気になることがあれば、気軽にサポート室を訪ねてください。

次年度の学習サポーターを平成25年3月に募集しますので、ご応募をお待ちしています。



活動期間 5月~2月
(授業および定期試験実施期間のみ)
時間帯 平日 14:50~18:10(4限・5限の時間帯)
場所 サポート室(センター2号館2102教室)

Culture Cafe の伊都店「嚶鳴珈琲館」ができました

【カフェ運営サークルとは】

こんにちは、「カフェ運営サークル茶処」です。箱崎キャンパスにある、通称「カルカフェ」という名で親しまれている知る人ぞ知るカフェ「Culture Cafe」を運営しているサークルです。今年4月に伊都キャンパスに新店舗「嚶鳴珈琲館」がオープンするとともに、大学の公認サークルになりました。



薬学部 4年 内田 愛子(うちだ あいこ)

「Culture Cafe」の始まりは1998年に当時、留学生だったチャドさんがC&C(チャレンジ&クリエイション)プロジェクトを使って短期限定で開いた露店です。その実績から21世紀交流プラザⅠの一角を借り、学生のボランティアによって営業を行う現在のカフェになりました。おかげさまで、現在まで、多くの方にご利用いただいております。

一方で、2009年より伊都キャンパスでの新店舗運営に向け、顧問の淵田教授、大学事務職員の皆様のご協力のもと、準備を進め、今年4月19日に伊都キャンパスに喫茶店「嚶鳴珈琲館」をオープンすることができました。

カフェ運営サークルというくらいなので、活動場所はカフェです。1つは箱崎理系地区21世紀交流プラザⅠの「Culture Cafe」、もう1つは伊都キャンパスセンターゾーン、センター2号館2101教室の「嚶鳴珈琲館」です。学部生から院生、留学生まで様々な学生が所属しており、現在、約25名で午後の授業の空き時間を使って活動しています。

【お店の紹介】

今年度後期の営業日は、前期終了時点では確定していませんが、ブログやTwitter、Facebookページで最新情報をお伝えしています。「culture cafe」で検索すると最初に出てくると思いますが、嚶鳴珈琲館ができてから「カルカフェなう」



というツイートをよく見掛けるようになり嬉しく思っています。ぜひまたお越しください!

ところで、皆さんにとってカフェで飲むコーヒー1杯の相場はいくらでしょうか? 私たちは機材や豆もこだわりながらコーヒー1杯をCulture Cafeでは150円、嚶鳴珈琲館では100円で販売しています。他にも紅茶やカフェラテ、ケーキなどがあり、飲み物とケーキのセットは300円よりお楽しみいただけます。また、季節限定、期間限定メニューも用意しています。



【サークルの特色】

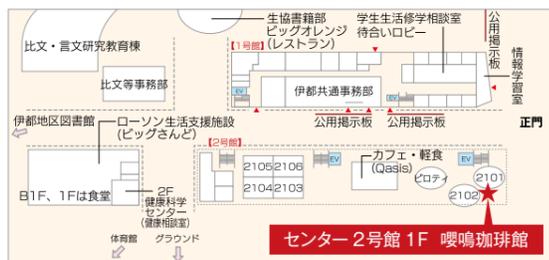
私たちはCulture Cafe、嚶鳴珈琲館を学生・留学生・教職員・地域の交流の場にしたいと考えています。そのため、学生・サークル・ボランティアの皆さんを全力でバックアップしていきます! これまでにCulture Cafeでは7月に七夕コンサート、10月にハロウィンフェア、12月にクリスマスケーキフェアといったイベントを行い、私たちスタッフを含め、イベント時に来てくださった皆さんが交流する場を提供してきました。今年度も嚶鳴珈琲館にて、コンサートや芸術作品の展示会、新入学生サポーターとのコラボ活動を行いました。

【最後に、ちょっと興味を持った方へ】

このサークルの良いところは、誰でも自由に発想して意見を出し、実行に移すことができることです。どんなお店にしたいとか、どんなメニューを出そうか、他サークルと協力してどんなことができるかなど、活動の幅は無限に広がっています! ちなみに去年のクリスマスケーキフェアのメニューの1つ、ロールケーキを使った雪だるまは、当時1年生のアイデアでした。興味を持った方はスタッフに声をかけてください!

私たちはお客さんとして、または一緒に活動するスタッフとして皆さんにお会いできる日を楽しみにしています! これからもカフェ運営サークル茶処をよろしく願います!

★ 嚶鳴珈琲館の営業時間 ★
月・火・木・金曜日の12:00~18:00
(2012年7月現在、学期ごとに変動あり)



▶▶▶「サークル紹介」コーナー 掲載部活・サークル募集中!!

全学教育広報誌「嚶鳴」の「サークル紹介」コーナーで、あなたの部活・サークルを紹介してみませんか? ただし、掲載は、九州大学公認の部活・サークルに限ります。

掲載を希望される方は、ohmei@artsci.kyushu-u.ac.jpまでご連絡ください。所属部活(サークル)名・所属学部・学科・学生番号・氏名と返信用メールアドレスを付けてください。採用等詳細については、後日、ご連絡いただいたメールアドレス宛に連絡します。

お知らせ

情報相談室からのお知らせ

九州大学では、学生の皆さんが充実した学修を進めていけるよう、情報通信技術を活用した様々なサービスや学習コンテンツを提供しています。これらの情報環境をうまく使いこなし、快適で実りある学生生活に役立ててください。また、情報相談室では主にPC等の情報機器に関する質問・相談を受け付けています。自習用にも開放していますので気軽に足を運んでください。



学生生活に必須!な情報サービス

◆ 教育情報システムアカウント (PCの利用、電子メールの利用など)

センターゾーンの教室等に設置されているPCへは、教育情報システムのアカウントを利用してログインできます。教育情報システムのアカウントを利用することで、PCの利用だけでなく、個人電子メールアカウントの送受信、個人ホームページ公開など、様々な機能が利用できます。

教育情報サービス

■ <http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/ec/>

学生基本メール

■ <http://www.m.kyushu-u.ac.jp/s/config.html>

◆ 全学ソフトウェア

九州大学の学生さんは、Windows OSやMicrosoft Office、セキュリティ対策ソフトを無償で個人所有のPCにインストールし、利用することができます。ソフトのダウンロード及び利用方法の詳細は下記ウェブページをご覧ください。

■ <http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/sw-room/ms/>

■ <http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/a-virus/>

◆ 無線LANシステム-kitenet-

九州大学では学内のほぼ全ての場所で皆さんが所有するノートPCやiPhone、iPad、Android端末等のモバイル機器を無線LANに接続して使用することができます。

■ <http://www.nc.kyushu-u.ac.jp/net/kitenet>

PCの利用環境

センターゾーンに設置されている利用可能なPCは下の表の通りです。講義室に関しては講義中の自習利用はできません。また、伊都図書館にも自習利用可能なiMacが70台程度設置されています。詳細や最新の情報は掲示や下記ウェブページから確認してください。

■ <http://xserve.rche.kyushu-u.ac.jp/groups/itcinfo/>

■ <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/scitech/>

PCの設置場所・台数・利用可能時間帯

設置場所	機種	台数	開室時間
1号館1階 情報学習室	Windows	17	8:30~19:00
1401講義室	iMac	73	
1402講義室	Windows	66	
1号館4階 1403講義室	Windows	81	8:30~17:00
情報相談室	Windows	14	
1号館5階 1501講義室	MacBook	70	8:30~19:00
1502講義室	MacBook	60	
情報管理室	iMac	5	
1号館6階 1601講義室	iMac	78	8:30~19:00
1602講義室	iMac	68	
2号館4階 嚶鳴天空広場 Q-Commons	iMac	13	9:00~21:00

いつでもどこでも! 学習コンテンツ

◆ NetAcademy2

学生の皆さんは「NetAcademy2」という英語教材を無料で使用することができます。学外の端末からも利用することができます。一部のプログラムは携帯でも利用できます。

■ <http://gogaku.kyushu-u.ac.jp>

◆ 九州大学 iTunes U、九州大学 YouTube 公式チャンネル

九州大学では授業や講演会、イベント等の映像や授業資料を無償で公開する取り組みを進めています。学生の皆さんにとっても有益なコンテンツが満載です。

■ <http://itunes.icer.kyushu-u.ac.jp/>

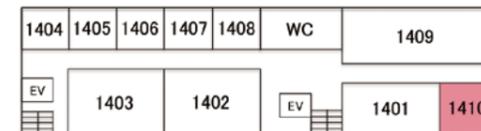
■ <http://www.youtube.com/KyushuUniv>

情報相談室の開室時間・連絡先

場所: センター1号館4階1410 開放時間: 平日8:30~17:00

TEL: 092-802-5892

E-mail: itcedu@artsci.kyushu-u.ac.jp



センター1号館4階

ぜひ気軽に「学生生活・修学相談室」へ

長かった夏休みも終わり、いよいよ後期が始まりましたね。1年生の皆さんは、入学後半が経ち、大学生活にもずいぶん余裕が出てきた頃ではないでしょうか。一方で、新しいことをこなすだけで精一杯の時期が一段落し、「何となくやる気がなくなる」等といった“なかだるみ”の状態になっている人もいるかもしれません。また、1年後期は、これまでじっくりと取り組む時間もエネルギーもなかった事柄—新しい環境に慣れるためにとりあえず棚上げしていた“気がかりなこと”や“悩みごと”—が、こころの前面に押し込まれる時期でもあるように思います(例えば、学業、進路や適性、友人や家族との関係etc.)。

学生生活・修学相談室では、さまざまな悩みや問題について、専門の相談員が皆さんと一緒に話し合いながら問題解決の糸口を丁寧に探していきます。相談室は、伊都キャンパスと箱崎キャンパスの2か所にあります。どちらでもご都合のよい方をご利用ください。

こんな時は「学生生活・修学相談室」へ

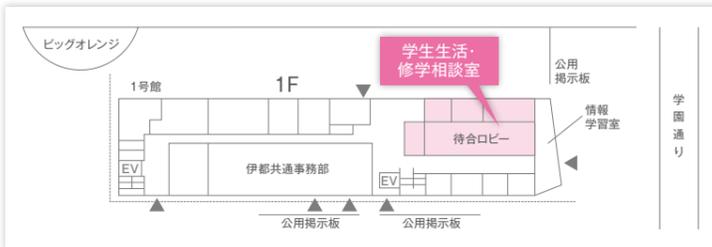
心身の健康等についての相談に応じる「健康科学センター健康相談室」、勉強の内容や専門分野での学びに関する悩み等について相談に応じる「学習サポーター室」等、九州大学にはいくつかの相談窓口があります。「学生生活・修学相談室」は、専門の相談員(臨床心理士)が常駐し、皆さんが学生生活を送る上で行き当たるどのような相談にも応じています。「こんなことで相談に行っているのかな・・・？」等とためらうことはありません。誰かに相談してみたいと思った時、また、窓口がいくつもあってどこに相談すればよいか迷ってしまった時には、まずはぜひ相談室を訪れてみてください。

相談したいときは

相談室は、伊都キャンパスのセンター1号館1階と、箱崎キャンパスの理系地区50周年記念講堂2階にあります。相談室の受付を直接訪ねるか、電話で、相談の申し込みをしてください。相談員との面接の日時を決めます。

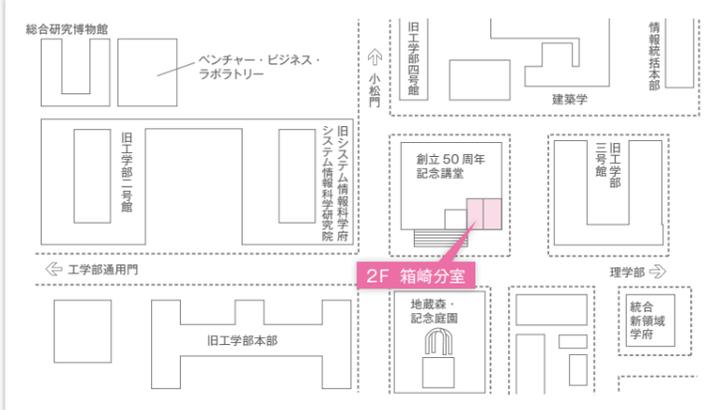
伊都キャンパス

◎ 伊都キャンパス 092-802-5820
月～金曜日 9:00～17:00
(12:00～13:00は昼休)



箱崎キャンパス分室

◎ 箱崎キャンパス 092-642-3886
月～金曜日 10:00～17:00
(12:00～13:00は昼休)



学生生活・修学相談室ホームページ 
<http://cg.rche.kyushu-u.ac.jp/>

健康科学センター健康相談室より

皆さんこんにちは。夏休みは楽しく過ごせましたか?いよいよ後期がスタートしましたね。1年生の皆さんもすっかり大学生活に慣れてきた頃ではないでしょうか。

さわやかな季節となってきますが、朝晩が冷えてくるこれからの季節は何かと体調を崩しがちです。夏の暑さで疲れた体を十分な睡眠・休養とバランスのよい食事であつて回復させましょう。

季節の変わり目、こんなことに気をつけてみましょう

下記のような症状はありませんか?
あてはまる人は、右のアドバイスを参考にしてみてください。

- 朝、すっきり目覚めない
- 食欲がない
- 寝つきが悪い
- 体がだるい



ワンポイントアドバイス

●朝食をとりましょう

朝食は一日の活動エネルギー源というだけでなく、生活リズムを整えるのにも役立ちます。



●定食メニューをとってきましょう

丼や麺類ですませていますか?単品は栄養素が不足しがちです。1日に1食は定食メニューをとりいれてみましょう。

●今夜はまず30分早く寝てみましょう

ついついダラダラと起きていませんか?まずは早めにベッドに向かってみましょう。寝不足のときは15分程度の昼寝も効果的です。



●ゆっくり入浴してきましょう

リラックス効果に加え、上げた体温が下がることで眠りにつきやすくなります。

健康相談室ご利用案内

健康相談室では、医師や保健師・看護師が皆さんの心身のご相談に応じています。ぜひご利用ください。

- ♪ 利用できる時間……月～金曜日 9:00～17:00
- ♪ 健康相談……内科医や精神科医の診察を受けることができます。精神科は予約制です。診察時間は曜日によって異なりますので、相談室入口の掲示で確認してください。
- ♪ 医療機関の紹介……医師の不在日や相談内容によっては、近医を紹介する場合があります。受診を希望する時は、まずご相談ください。
- ♪ 応急処置……ケガの応急処置を行います。傷口を水道水できれいに洗ってから来てくださいね。
- ♪ 健康チェック……身長・体重・体脂肪率・血圧などの測定ができます。
- ♪ 休養室……急に気分が悪くなった時に、休めます。

■お問い合わせ先

健康科学センター 伊都地区センターゾーン健康相談室(ビッグさん2階)
TEL: 092-802-5881 <http://www.ihs.kyushu-u.ac.jp/>



Discover Ito!

～伊都キャンパスおすすめスポット紹介～

第4回

センターゾーン入り口 「アートワーク 築山」

このコーナーでは、伊都キャンパスにあるおすすめスポットをご紹介します。
第4回目は、伊都キャンパス入り口のちょっと気になる「あれ」についてです。



発見場所：
センターゾーン入口

「あれ」っていったい・・・?

学園通り線を伊都キャンパスへ向け登ってくると、視界の左手には書家柿沼康二氏による“九州大学”の銘板とともに開放感溢れるキャンパスモールが広がります。センターゾーンは伊都キャンパスを訪れる多くの人が最初に目にする、まさにキャンパスのエントランスと呼べる場所に位置しています。

このセンターゾーン入り口に設けられた複数の小高い芝生に覆われた山、あれっていったい何なのか皆さんご存知でしょうか？

「あれ」を巡っては、人びとの間に様々な疑問や憶測(?)が存在するようです。「あの不揃いなサイズと幾何学的な形には意味があるのでしょうか?」「古墳みたいな形をしていますよね…もしもそうであれば一体誰のお墓なのでしょう?」「中に入れたりほしくないのでしょうか?」などなど。「あれ」を上空から眺めると、どれも円錐形に整っていることが見て取れます。今度は近づいて観察すると、入り口らしきものは見当たらず、周りは全て芝で覆われています。大きいものは2.5 m以上の高さで、近くで見ると結構な迫力です。



象徴性・美観性・合理性を兼ね備えたアートワーク「築山」

あの山々は、正式には「築山」と呼ばれるアートワークです。築山の持つ円錐型の幾何学的形状は、大学の知が有する「多面性」、大学の学問・研究が持つ沸き上がるエネルギーの「情熱」および頂点を目指す「先進」、といった象徴性を表しており、新入生の最初の学びの場であるセンターゾーンにおいて学修への意欲を喚起することが期待されています。また様々なサイズを効果的に組み合わせることにより奥行きや律動感を生み出し、芝生による緑化を行うことで伊都キャンパスの美観や憩いの場としての空間を形成しています。さらには、センターゾーン整備の際の残土の有効利用や、学園通り線からの適度の遮蔽機能を持つといった合理性も兼ね備えています。



キャンパス内で普段何気なく目にするところにも、このキャンパスを創るために関わっている多くの人びとの智恵や想いが込められています。この先も発展を遂げる伊都キャンパスの未来、大学の学問・研究の持つ情熱や力、そして皆さん一人ひとりに広がる将来に思いを馳せながら、一度ゆっくりと築山を眺めてみてはいかがでしょうか？

あとがき

まず、この「嚶鳴」を積極的に活用してください。さまざまな「これから役立つ情報」が盛り込まれています。

また、読者である学生さんに、もっとこの「嚶鳴」に関心をもって参画していただきたいという思いを込め、本誌3頁に「information」として、今回から「嚶鳴」で募集等をしている事項をまとめました。是非、積極的に参加してください。

また、「嚶鳴」に対するみなさんの声を ohmei@artsci.kyushu-u.ac.jp まで、是非お寄せください。

さて、1年生のみなさんは、大学での生活を半年間体験し、少し大学生らしくなって、後期での学生生活に意欲をもって臨んで行かれることと思います。今の時期はきっと「大学ってこんなところなんだ」との実感を持たれたところかな・・・?

さてさて・・・

- The more I learn the more I realize I don't know. The more I realize I don't know the more I want to learn. (Albert Einstein)
 - Knowledge is power. (Francis Bacon)
 - Every man I meet is in some way my superior. (Ralph Waldo Emerson)
 - Happiness never decreases by being shared. (Buddha)
 - Well done is better than well said. (Gwen Haymore)
 - After all tomorrow is another day. (Margaret Mitchell)
- というわけで・・・

Take a chance. Go for broke.

編集委員(五十音順)

【◎委員長】

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 大津 隆広(言語文化研究院) | ゲルマー・アンドレア(比較社会文化研究院) |
| 小島 健太郎(基幹教育院) | 坂井 悠(基幹教育院) |
| 角 俊雄(基幹教育院) | 福田 義勝(学務部全学教育課) |
| ◎淵田 吉男(基幹教育院) | 山下 親子(基幹教育院) |



アートワーク築山 (センターゾーン入口)

嚶鳴 おうめい 第4号 九州大学全学教育広報誌

発行日 2012年10月1日

発行元 九州大学基幹教育院

〒819-0395 福岡市西区元岡744番地

電話 092-802-5921・5922 / FAX 092-802-5990

制作・印刷 株式会社ミドリ印刷